

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部

発行：会長 田中勇次郎

積小為大

— 小さな実践が未来をつくる



新年あけましておめでとうございます。このたび、西多摩・南多摩ブロックのブロック長を拝命しました永生病院の上野繕広です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年の巻頭言ということで、縁起物として知られる「一富士二鷹三茄子」の話題に少し触れさせていただきます。私は山が好きで、これまで富士山には5回登りました。「一度も登らぬ馬鹿に、二度登る馬鹿」と言われるほど大変な山ですが、それでも仲間と励まし合って登った時間は特別で、今でも前向きな力をくれる経験です。また、今年3月には5回目のフルマラソンにも挑戦する予定です。思えば私自身、ただ“やってみよう”という気持ちを大切にしてきたからこそ、こうした挑戦を続けてこられたのだと思います。

そして、西多摩・南多摩ブロックといえば、都内でも有名な登山スポットである高尾山がある地域です。自然豊かな環境に恵まれ、気軽に山に触れられる魅力がある一方で、医療や福祉の施設が広いエリアに分散しているため、OT同士が日常的に顔を合わせる機会はどうしても限られてしまいます。その中で、「関わりたい」と思ったときに自然に入ってこられる場所であることが、ブロックの役割のひとつだと感じています。

私が委員として関わっていた頃、特に印象に残っ

ているのは大懇親会です。西多摩・南多摩ブロック経験年数ごとに机を囲み、ツク長 上野 繕広 70名以上のOTが集まり、会場中が笑顔に包まれました。そこから「キャンプで語り合おう」「合宿のような学びの場もやってみよう」といった声が生まれ、ブロックとしていろいろな企画に挑戦したことを覚えています。

このブロックでも、それぞれの現場で頑張っているOTがたくさんいます。その一人ひとりが、日々の実践で感じた工夫や悩み、小さな成功体験を気軽に持ち寄れるような場にしていきたい。そうすることで、患者さん・利用者さんの“彩りある暮らし”につながっていくと信じています。

近年、OTとしての価値を社会に示す必要性は確実に高まっています。成果を可視化し、小さな実践を積み上げる姿勢がこれまで以上に求められる時代です。二宮金次郎の言葉「積小為大（小を積んで大と為す）」は、まさにその象徴と言えるでしょう。地道な積み重ねが未来をつくるという姿勢を、ブロックとしても大事にしていきたいと思っています。

関わった人が笑顔になり、その笑顔がまた誰かに「いいな」という気持ちを広げていく。そんな小さな良い循環を生み出すブロックでありたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

- ◆積小為大 — 小さな実践が未来をつくる…①
- ◆第59回日本作業療法学会参加報告：高松の熱い3日間…②
- ◆【延期】年会費の未納による退会処理の運用変更について…③
- ◆ソーシャルバスケットボール交流会・研修会開催報告…③
- ◆教育部からのお知らせ…④
- ◆【事業部活動報告】アンケート調査ご協力をお願い…④
- ◆東京都作業療法士会子ども委員会 今年度の活動報告と来年度への展望…⑤
- ◆地域活動の輪を広げたい 『地域づくりサポーター 実践報告会&交流会』開催のご案内…⑤
- ◆認知症の人と家族の生活支援委員会 今後の予定…⑥

- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.54…⑥
- ◆保険部 Letter 作業療法士として知っておきたい障害者雇用の最新動向…⑦
- ◆福祉用具部からのお知らせ…⑦
- ◆自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告…⑧
- ◆就労支援に関する学会のご紹介…⑧
- ◆2025年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告…⑨
- ◆ブロック活動報告…⑩
- ◆2025年度 代議員選挙の実施について…⑫
- ◆編集後記…⑫

第59回日本作業療法学会参加報告：高松の熱い3日間

彰栄リハビリテーション専門学校 作業療法学科 専任教員 林 一斗

2025年11月7日から9日の3日間、香川県高松市で開催された第59回日本作業療法士学会に参加してきました。香川県では初開催、四国でも第23回の愛媛学会以来36年ぶりという記念すべき大会です。温暖でさわやかな秋晴れの中、風光明媚な瀬戸内海沿いのサンポートホール、かがわ国際会議場、あなぶきアリーナ香川に約3100名の作業療法士が集まりました。今学会のテーマは『作業療法の価値を高めるエビデンスの創出』で、特徴は1500を超えるエントリーから選ばれた、口述発表320演題、ポスター発表1130演題の計1450演題という過去最多の演題数です。特にポスター発表は、昼と夕方の講演や口述発表がない時間帯に配置され、会場は非常に高い密度と熱気に包まれました。

私が特に感銘を受けたのは、学会長講演です。作業療法で扱う「作業」は個性が高いため、日頃からその価値を客観的なデータやアウトカムで示す難しさを感じていました。しかし、学会長は作業療法の役割を「HealthとWellbeingの向上」と位置づけ、世界的にもその成果はQOLをはじめとする患者報告アウトカム (PRO: Patient-Reported-Outcome) に置き換わってきていると説明しました。学会長の「作業療法の価値は症例報告で十分に示すことができる。」という言葉は、これから始まる学会の成功を予見するとともに心が引き締まる思いでした。

今回、私は初めて日本作業療法学会で発表しました。内容は授業で扱った医療専門用語が臨床見学実習で実際に使用されたかをアンケート調査した結果をまとめたものです。ポスターの会場は想像以上の熱気で、与えられた1時間は常に活発な質疑応答と意見交換の場となりました。「入学直後の入門授業として、学生の興味を引き出しやすく実習につなげることができる。」と、教育効果に対する肯定的な評価をいただき、自身の発表に手応えを感じました。

学会以外の時間も非常に充実していました。開催地の香川県は言わずと知れたうどんの名産地です。私はあえて素泊まりにし、会期中は早朝から営業しているうどん屋で朝食をとりました。また、夜は学会を通じて知り合った他の施設や領域の作業療法士と懇親会を開催し、仕事や研究に関する忌憚のない意見交換を通じて、新たな共同研究の機会にもつながるなど、有意義な時間を過ごすことができました。来年度は2026年11月20日～22日に新潟県で行われます。今学会と同規模の1450演題（口述320演題、ポスター1130演題）で開催予定ということで今から楽しみでたまりません。今後も微力ながら作業療法を盛り上げていきたいと思えます。



看板前で一枚



ポスター会場のあなぶきアリーナ

【延期】年会費の未納による退会処理の運用変更について

一般社団法人 東京都作業療法士会 事務局 中里 武史

日頃より、東京都作業療法士会の事業にご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。東京都作業療法士会では、日本作業療法士協会との「協会員＝士会員」を推進するにあたり、年会費の未納による退会処理について日本作業療法士協会に沿った運用に変更していくこととし、退会処理を実施するまでの未納年数について2025年度からは当年度の未納がある場合に翌年の総会終了後（6月末）退会処理を行う運用に変更させていただくとしてご案内しておりました。

しかし、日本作業療法士会より「協会員＝士会員」実現のための方策の転換が示され、今年度より実施する必要性がなくなったことを受け、東京都作業療法士会の9月理事会にて運用変更を延期とすることが承認されました。

なお、引き続き「協会員＝士会員」については日本作業療法士協会と協力し、組織率向上や入会の促進について取り組んでまいります。

何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【延期】未納での退会となる年数を2年としての運用を継続します。

2024年	2025年	2026年	2027年
会費未納	→ 会費未納	→ 6月末退会	
	→ 会費未納	→ 会費未納	→ 6月末退会

※退会処理後に再度入会を希望される場合には未納分と当年度の会費をお支払いいただいてからの再入会となりますので、予めご注意の上でご了承ください。

ソーシャルバスケットボール交流会・研修会開催報告

スポーツ支援委員会 小林 陽香

2025年12月6日（土）にソーシャルバスケットボール交流会・研修会を開催いたしました。当日は運営合わせて25名参加されました。研修会は、パラスポーツやその支援に興味のある作業療法士が交流の輪を広げる機会として設け、「精神障害領域におけるパラスポーツ支援の取り組み」「地域におけるスポーツチーム発足の取り組み」をテーマに実施いたしました。

交流会は、作業療法士、精神障害当事者の方、そのご家族の方、その他支援者が一緒に汗をかき、バスケットボール（3X3）を楽しみました。交流試合では自然とプレーに対し声援や拍手が生まれ、バスケットボールという作業を通して、様々な立場や所属の方が同じ時間を共有する機会となりました。また、フリースロー大会では、一つのゴールで順番にフリースローに挑戦しました。みんなに見守られる中、少し緊張されている方もいらっしゃいましたが、シュートが入るたびに大盛り上がりでした。

今回得た経験や知識をもとに引き続きプレーの機会や交流の場を作っていきたいと思っております。



教育部からのお知らせ

1. 2025年度 現職者共通研修（講義1～8）

開催日：※下記2日間で4講義ずつ開催いたします

(1) 2026年2月1日（日）（9：30～16：40、15分前よりZoom入室可）

(2) 2026年2月15日（日）（9：30～16：40、15分前よりZoom入室可）

開催方法：ZOOM使用でのオンライン研修

参加申し込み締切り：(1) 2025年1月23日、(2) 2026年2月6日

問い合わせ：kyo.2ken@gmail.com（担当：岩田、二村）

【2月1日：共通】 【2月15日：共通】



2. 2025年度 現職者選択研修：MTDLP基礎研修

開催日：2026年3月8日（日）

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加申し込み締切り：2026年2月8日

問い合わせ：kyoiku.original@gmail.com（担当：今村）



【事業部活動報告】アンケート調査ご協力をお願い

事業部 西原 将太

この度、事業部では長期休業・休職（産前産後休業、育児休業、介護休業、病気療養に伴う休職、自己都合休業など）を経験した方、もしくは今後予定している方、既に離職・退職した方に関する実態と、そこから円滑な復職を支援するための課題を明らかにするため、アンケート調査を実施することになりました。

本調査では、長期休業・休職を取得する前後の心境の変化、特に復職時に直面した困難や課題とともに、一度離職・退職された潜在作業療法士の皆様が抱える課題についても、皆様の貴重なご経験とご意見を広くお伺いしたいと考えております。

皆様からお寄せいただいた情報は、今後の作業療法士のキャリア継続支援や、職場環境の改善に向けた提言、研修プログラムの策定などの重要な資料として活用させていただきます。

つきましては、下記に該当される作業療法士の皆様におかれましては、ご多忙の折とは存じますが、本調査の趣旨にご理解いただき、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

【調査対象者】

- 長期休業・休職（2週間以上）のブランクがあるが現在は勤務している方
- 現在、長期休業・休職中（2週間以上）の方
- 今後、長期休業・休職（2週間以上）を予定している方
- 現在作業療法士として勤務していない方



東京都作業療法士会 子ども委員会 今年度の活動報告と来年度への展望

子ども委員会 伊藤 祐子

今年度、東京都作業療法士会子ども委員会では、子どもの成長と学びの場に関する新たな取り組みに挑戦してきました。特に大きな成果として、学校への作業療法士派遣事業を開始し、登録者とともに都内の学校からの依頼に応じています。また、「学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）」も開催しました。来年度以降はより積極的に学校からの依頼を受け入れられる体制づくりを進めていきます。

さらに、国の方針として5歳児健診の普及が推進される中、作業療法士の参画に向けた準備も進めています。日本作業療法士協会の特別重点活動項目でもある本取り組みは、東京都においても子どもの健やかな発達とスムーズな就学移行を支える重要な機会となります。来年度の事業に組み込み、健診やフォローアップを含め、地域に沿った柔軟な支援が展開できるよう検討を重ねてまいります。

また今年度は、複数の福祉機器展示会に参加し、子どもと家族が「やってみたい」活動と環境や道具をつなぐ作業療法士の役割を積極的に発信してきました。「作業療法士はすべての子どもの遊びを保障する」をスローガンに掲げ、遊びと生活の場における作業療法の可能性を広く示すことができたと考えています。7月に開催された東京都作業療法学会では「遊び」をテーマにしたワークショップも開催し遊びの意味や価値について学びを深めました。来年度も継続して大切なテーマに取り組みますので、どうぞ楽しみにしていただければ幸いです。発達領域以外の経験をお持ちの作業療法士の皆さまのご参加も大歓迎です。

地域活動の輪を広げたい 『地域づくりサポーター 実践報告会&交流会』開催のご案内

地域づくり共創部 中谷 美季

地域づくり共創部では、2022年度より『地域づくり人材育成研修』を開始し、基礎編、実践基礎編、実践編と数多くの方に受講していただいております。この研修をきっかけに地域活動を始められた方も沢山おられるようです。

地域では、その地域の特性や地域住民のニーズに合わせた活動を、専門職の外、行政の方、住民の方と関わりながら実践していきます。正解が分かりづらいものであり、成果がすぐには現れないものもあります。そのため、「上手くいったなあ」と思うこともあれば、「失敗したあ、あの時どうしたら良かったんだろお」と苦戦を強いられ、悩みながら活動している実践者も少なくないと思います。

そのような、実践者のための『報告会&交流会』を開催いたします。昨年は、22名が集まり、実践報告と食事をしながら情報交換をおこないました。私自身も地域で活動する一人ですが、報告者のお話は参考になるものでしたし、参加者との交流は勇気づけられるものでした。同じ方向を見ている仲間と繋がる、その輪が広がっていくことは、とても清々しいものです。

今年も沢山の実践者、そして地域で活動したい者と繋がりたいと考えております。詳細につきましては、東京都作業療法士会ホームページに掲載いたしますのでご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

認知症の人と家族の生活支援委員会 今後の予定

認知症の人と家族の生活支援委員会委員 野本 潤矢

認知症の人と家族の生活支援委員会では、2017年から認知症アップデート研修を開催しており、今年度も1月下旬に実施する予定です。国内外の認知症の動向をはじめ、認知症の障害の本質とBPSDへの理解、作業療法におけるアセスメント、事例検討と経験年数を問わず多くの方にご参加いただける内容となっております。

さて、昨年1月に施行された認知症基本法では、認知症の人は介護や支援が必要な支えられる存在ではなく、ともに生きる存在であるという点が強調されています。認知症の人を主体とした共生社会をつくり上げていくために、当事者である藤島さんと一緒にこれまでさまざまな取り組みを行ってきました。今年度末には、当事者の方を巻き込んだ研修を企画しております。詳細が決まり次第、広報を開始しますので、いましばらくお待ちください。

最後になりますが、当委員会ではブログを定期的に配信しています。内容は一般の人を対象としていますが、現場の皆様にも臨床に役立つヒントがあるかもしれません。ご興味のある方はぜひご覧ください。



認知症にやさしい本の紹介 VOL.54

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『ひとりじゃないき ―認知症と診断された私がデイサービスをつくる理由』

著/ 山中しのぶ

本書はある日突然、若年性アルツハイマー型認知症と診断された女性が絶望から希望へ、再生を綴ったノンフィクションである。著者は3人の子を育てるシングルマザー。働き盛りである41歳で告知。まさに「人生の終わり」を突きつけられるような衝撃だった。

しかし、本書は単なる悲嘆に暮れる体験記ではない。私はタイトルの中にある「き」を調べた。「き」は著者の暮らす高知の方言（土佐弁）で、強い意志や親愛の情を含むと分かった。「ひとりじゃないき＝ひとりじゃない「からね」」という思いが詰まった終助詞。彼女を絶望の淵から救い上げたのは、家族や友人、そして地域の人々との温かな繋がりがあったからである。

本書のハイライトは、本人が「守られるべき当事者」という立場を超え、自ら一般社団法人「セカンド・ストーリー」を立ち上げ、デイサービスを開設するまでの行動の記録。当事者だからこそわかる不安や痛みを、支援の現場に還元しようとする。その姿勢は、既存の介護システムに一石を投じるものである。彼女が提唱する、前向きに暮らすためには「本人・家族・専門職・地域社会」という4つのタイヤが必要だという視点は、具体的でイメージしやすく、ハッとさせられた。

認知症になっても人生は終わりではない。新たな物語を紡ぐことができる。本書は、認知症に対する社会の偏見を解きほぐし、超高齢社会を生きるこの時代にとっての、共に生きる未来への道標となる力強い一冊である。

保険部 Letter

作業療法士として知っておきたい障害者雇用の最新動向

永吉 隆生

2025年4月から、障害者雇用促進法の改正により、特定業種における障害者雇用の「除外率」が一律で10ポイント引き下げられました。除外率とは、安全確保等の観点から障害者の雇用義務を一部免除する制度で、例えば建設業で10%、医療業で20%などに見直されました。これは、障害を理由とした不平等を是正し、障害の有無にかかわらず誰もが働ける「共生社会」の実現を目指すものです。また、2024年4月には障害者差別解消法も改正され、事業主に対して職場環境のバリアフリー化や柔軟な勤務形態の導入など、合理的配慮の提供が義務化されました。加えて、2026年7月には法定雇用率が2.5%から2.7%へ引き上げられる予定です。一方で、日本における中小企業は、58.1%が障害者を一人も雇用していないという課題も残されています（厚生労働省、2024）。作業療法士は、障害者が社会参加できるよう支援する専門職です。障害者が働きやすい環境を整えるために、企業に対して合理的配慮の提案を行うなど、社会と当事者をつなぐ実践が今後ますます重要になるでしょう。

表 除外率の引き下げ一覧（主要業種）

業種	現行の除外率	改正後の除外率
貨物運送取扱業	15%	5%
建設業	20%	10%
医療業・鉄道業	30%	20%
林業	35%	25%
金属鉱業・児童福祉事業	40%	30%
特別支援学校	45%	35%
小学校・旅客運送業	55%	45%
幼稚園・認定こども園	60%	50%
船員等の船舶運航	80%	70%

※全業種共通で「10ポイント」引き下げ（厚生労働省、2024）。

福祉用具部からのお知らせ

2025年10月19日（日）東京都立大学荒川キャンパスにて、上肢装具研修会「PSBとMOMOを知ろう！使おう！」を開催しました。田中勇次郎氏、多摩丘陵病院の松岡耕史氏による講義では、神経難病、頸損、脳血管疾患での実践に基づく活用として、生活上での上肢使用に利用することや、上肢機能の向上目的での利用、疼痛緩和目的での利用など、様々な視点での学びとなりました。ハニーインターナショナル様とテクノツール様には、実機を複数用意していただき、機器の説明、操作体験の他、開発でのOTの関わりや導入事例の紹介をしていただきました。最後にグループワークでPSBとMOMOを様々な目的で使用し、それぞれの特徴や感じたことを共有することができました。上肢の重みを取り除くタイプの上肢装具を2種類体験できる研修は、全国的にみても貴重です。今後も機会や要望があれば企画いたします。

今回、堀田まいさん（多摩丘陵リハビリテーション病院）が、感想をまとめてくださったので以下に紹介します。

上肢機器（ポータブル・スプリング・バランスー（PSB）とMOMOシリーズ）の勉強会に参加しました。機器が単に筋力を補うだけでなく、使用者の動作意欲や主体性を高める点が特に印象的でした。

PSBは腕の重さを支えて動きを助けるため、パソコン作業やピアノ演奏など長時間の作業に有効であることを学びました。MOMOシリーズは、使用者が開始から終了まで自己管理できるため、食事などの場面で介助なしに活用できる点が魅力的でした。また、機器の調整方法を詳しく学ぶことで、支援者としての関わり方の重要性を再認識しました。今回得た知識と経験は今後の支援に生かせると感じ、非常に有意義な学びとなりました。



自動車運転と移動支援対策委員会 活動報告

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大熊 諒

本委員会では、脳損傷者の自動車運転再開支援をテーマとした研修会を開催いたします。本研修会は、作業療法士に必要な知識や評価・助言のポイントに加え、実際に運転再開支援において難渋した症例をもとに、臨床現場で直面しやすい課題や判断の難しさ、対応の工夫などを具体的に共有できたらと考えております。

【研修会概要】

- ・日時：2026年1月23日（金）19：00～20：35
- ・開催形式：Zoomによるオンライン開催
- ・定員：50名
- ・受講料：会員500円、非会員・他県士会員1,000円
- ・テーマ：脳損傷者の自動車運転再開支援に作業療法士が必要な知識と注意点



【内容】

- ・第一部：運転再開に必要な医学的知識と注意点（武原 格 先生）
- ・第二部：メタ認知の視点からみた作業療法士の役割（坂 直樹 氏）
- ・第三部：運転再開支援で難渋した症例報告（諏訪部 亮太 氏、河原 龍平 氏）

運転再開支援に関わる作業療法士にとって、日常臨床にすぐに活かせる実践的な学びの機会となる研修会です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

就労支援に関する学会のご紹介

就労支援委員会 齊藤 陽子

今回は、就労支援について学ぶことができる就労支援委員会メンバーお勧めの学会をご紹介します。

就労支援に関する知識や注目すべきトピックスを学べるだけでなく、就労支援機関の方や企業の方など作業療法士以外の方の発表を聴くことができたり、実際に交流ができたりします。

作業療法士の参加も少しずつ増えており、就労支援に興味がある・携わっている作業療法士と出会えるチャンスもあります。

就労支援に興味がある方、学んでみたい方は、是非、下記学会のサイトを訪問してみてください！

【就労支援について学ぶことができる学会】

日本職業リハビリテーション学会（全国大会）

<https://vocreha.org/>

職業リハビリテーション研究・実践発表会

<https://www.nivr.jeed.go.jp/vr/vrhappyou-index.html>

就労支援フォーラム

<https://hataraku-nippon.jp/forum-2025/>

2025年度災害時を想定したシミュレーション訓練の実施報告

都士会災害対策担当 松島 宗世

【都内で大規模災害が発生した際の都士会の対応について】

都内で大規模災害が発生した際（震度5強以上や豪雨災害などで避難所がいくつも開設されて被災の影響が長期間続くことが想定される場合）に、会員の安否・被災状況の確認を都士会で実施します。

その後、安否・被災状況の情報はOT協会と日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT:OT協会PT協会・リハ医学会・日本義肢装具士協会など13団体で構成）と共有致します。

それにより実施することになる物的支援と人的支援がスムーズに進むよう年に1回、全国の都道府県作業療法士会が一斉に災害発生を想定して、それぞれの士会員の安否を確認する災害時シミュレーション訓練を実施しています。

【2025年度災害時を想定したシミュレーション訓練の結果】

今年度は、9月25日から10月末にかけてシミュレーション訓練を行い、都士会では以下の方法で会員の安否確認をいたしました。

- ①都士会Faxの配信（東京都内のOTが在籍している施設・病院へ都士会Faxを送信）
- ②ブロックと連携した連絡（各ブロックの災害対策の担当者を中心にブロック内で連絡）
- ③災害時連絡用メールの配信（災害時連絡用メールに登録している会員へ個別に連絡）
- ④都士会LINEの配信（登録されている会員へLINEで連絡）

【訓練結果（カッコ内は本年度/昨年度）】

★安否が確認できた会員数：1,091名/2,493名（43.2%/50.6%）

★ブロック別実施率

区中央部区南部：149名 / 285名（52.3 %/45.7%）	区西南部区西部：150名 / 359名（41.8 %/45.4%）
区西北部：155名 / 340名（45.6 %/40.9%）	区東部区東北部：231名 / 403名（57.3 %/63.0%）
南多摩西多摩：271名 / 460名（58.9 %/57.3%）	北多摩：98名 / 345名（28.4 %/46.6%）

シミュレーション訓練にご協力いただき、ありがとうございました。今後も平時の対応、連携を強化できるよう努めてまいります。



災害派遣登録バンクへも、ぜひご登録ください! 登録先はこちら 

★都士会保険部員（災害対策）も募集中。ご連絡は tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（担当：松岡）まで

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

今井 光

先日、ブロック委員での会合（という名の忘年会）を開催し、次年度に向けた方針について語り合いました。都学会での経験を活かしながら、中・高校生などの学生さんに作業療法の魅力を伝えるイベントや、ヤングケアラーの課題への取り組みなど、新しい活動にも積極的に挑戦していきたいと、皆で決意を固めたところです。また、当ブロックは活気あるメンバーが多く、第59回日本作業療法学会では当ブロック委員のポスター演題が3題連続で並ぶというびっくりする出来事もあるほど学術活動も非常に盛んです。ご興味のある方は、ぜひお気軽にご連絡ください。さらに、1月23日には体験型の福祉用具研修会を開催いたします。こちらも当ブロック一押しので研修会ですので、ぜひご参加いただけますと幸いです。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

区西部・西南部ブロック

野尻 結子

11月21日に、ブロック研修「ここでも活躍してるの?! 作業療法士 ～OTの起業と行政への参入～」を開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございます。作業療法士が、医療や福祉の場だけでなく、起業や行政などさまざまな分野で活躍していることを知ることができ、とても刺激的な時間となりました。ご講演いただいた先生方にも心より感謝申し上げます。これからも、皆さんの学びやつながりの場となるような研修を企画していきますので、ぜひ次回もご参加ください!

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

林 孝明

今年度より東京都作業療法士会区西北部ブロック委員を拝命しました林孝明と申します。今までは企画に参加する側だったため、その時の経験を踏まえて参加者目線の意見を取り入れた活動を行いたいと思います。先日は第59回日本作業療法学会が開催されました。また、2026年2月にはWFOT Congress2026が開催されるなど、今年は作業療法士関連学会が多い年となります。学会にて同ブロックや全国、世界の作業療法士と交流が持てることは、自己の見識を飛躍させてくれるものと考えております。これは他領域であっても“生活”に焦点を当てて介入する作業療法の特徴であると思います。当ブロックでは、1月に交流会を企画しております。皆様と多くのことをディスカッションできればと思います。ご参加を心よりお待ちしております。今後も皆様に興味を持ってもらえるような企画を考えてまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

森田 将健

区中央では、9月13日に交流会を開催しました。HPからの参加は多くありませんでしたが、知り合いのOTに声をかけて参加された方が多く、ざっくばらんな交流が図れました。区南部でのイベントや研修は今期行っていませんが、現在ブロック内で交流会や連絡会に参加していただいた施設の代表者の方に「参加してみた

い」「興味がある」研修会を打診し、次年度に向けて準備中です。ブロック内の都士会員の皆様が少しでも参加したい、興味がある研修会を開催できればと考えています。また、当ブロックと一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を募集しております。ブロック活動に興味のある方はメールをください。是非、一緒に活動しましょう！

連絡先→ ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

佐々木 康友

12/6、武蔵五日市の古民家”壺番館”にて第20回ツドイノバ（座談会）を開催し、計20名が参加。メインテーマは「OTの明るい未来を考えよう」でした。和気あいあいと食べながら飲みながらも、一般の人々に認知されているとは言い難いOTについて、どうしたら広めていけるのか、そしてOTの担い手を増やしていけるのか、それぞれの想いを語りあいました。様々なアイデアが出されましたが、やはり現実的にできることとしては、我々がOTについて身近な人々に広報していくことでした。そこで私が感じたのは、目の前の対象者を笑顔にしていくこと自体が大きな広報活動にもなり得るのではないかと、ということでした。皆さんはどのようにお考えになりますか？

北多摩ブロックでは随時ブロック員を募集しています。お気軽にお問い合わせください。また、Instagram(@kitatama_ot)も運営しておりますので、ぜひご覧ください。→連絡先ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

榛葉 智之

西多摩・南多摩ブロックでは11月15日にMTDLP事例検討会を開催しました。参加人数は多くはありませんでしたが、その分たくさん意見交換ができ活発な検討会となりました。ファシリテーターの山野井先生をはじめご参加いただいた皆様ありがとうございました！また、その他のブロック主催研修会も委員が色々企画を練って開催しておりますので、今後も西多摩・南多摩ブロックの活動をウォッチして頂ければと思います！ブロックの活動に興味を持っていただいたら下記の連絡先までお声かけ下さい！

なお、10月より当ブロックのブロック長が交代となり上野繕広新ブロック長となっておりますのでご報告申し上げます。

連絡先⇒swtamaot@gmail.com



各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

2025年度 代議員選挙の実施について

事務局長 中里 武史

東京都作業療法士会では、正会員の中から選挙で「代議員」を選び、その代議員が社員総会の構成員となる「代議員制度」を2017年より導入しております。

(代議員制とは、正会員の中から「一般社団法人上の社員」を「代議員」として選出し、その代議員が決算の承認や役員の選任、定款変更などの重要な事項を決議する法人の総会の構成員となる制度です。)

このたび定款第10条により、4年に1度の代議員選挙を実施いたします。

代議員は正会員の80名に1名としており、各選挙区と代議員定数は以下の通りとなります。

東京都作業療法士会 代議員	定数：31名
第1区：区西南部・区南部	定数：5名
第2区：区西北部	定数：5名
第3区：区東部・区東北部	定数：6名
第4区：区中央部・区南部	定数：4名
第5区：北多摩	定数：5名
第6区：南多摩・西多摩	定数：6名

2026年1月5日(月)にホームページにて公示を行いました。立候補届は2026年1月25日(日)まで受け付けております。選挙の詳細や立候補様式一覧は東京都作業療法士会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

なお、定数以上の立候補が挙がる場合には選挙を実施いたします。

3月号のニュースでも続報を掲載いたしますが、選挙を実施する場合は以下の期間で投票を受け付けることとなりますので、会員の皆様におかれましてはご理解ご協力くださいますようお願い致します。

投票期間 2026年3月4日(水)～3月21日(土)

編集後記

本年も都士会ニュースをよろしくお願いいたします。

今年度の都学会は500名余りの参加、日本作業療法学会の参加者は約3100名と年を重ねるごとに参加者が増えているそうです。とても良いことだと感じています。演題数も増え続け、確実に日本人の生活の中に作業療法が染み込んでいる証といえるのではないのでしょうか。

さて、先日、協会の山本会長と卒後教育の打ち合わせで、お話をさせて頂く機会を得ました。その際、「作業療法士の多くが病院で働いている。その頑張りがあるから、OTの領域を広げられるんだ!」と仰っておられた事が心に残っています。

病院外で活動するOTが増えてきて医療現場での知識、技術が地域で役立っています。今でも患者様を良い状態にする力を伸ばす経験には量的にも病院が一番です。いまでも臨床に出ているはずなのに、いつの間にか当然のことが希薄になっていた気がします。会長の言葉を受け、研鑽し、もっと作業療法が上手になりたいと思いました。

2026年も様々な研修会や学会が催されると思います。開催側の方に感謝しつつ、楽しんで参加して学びたいです。また、広報を通してOTの輪を広げられるよう発信していきたいと思います。

広報部 部長 野村 哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。